

---

---

# 第二次所沢市市民医療センター改革プラン

---

---

平成28年度 報告書

平成29年7月  
所沢市市民医療センター

## 目次

はじめに .....	1
(1) 経営改善に向けた数値目標 .....	2
① 病床利用率 .....	2
② 医業収支比率 .....	4
③ 職員給与費比率 .....	5
④ 経常収支比率 .....	6
(2) 目標達成のための具体的な取り組み .....	7
① 地域連携体制の強化 .....	7
② 内科診療の充実 .....	13
③ 小児科の医師確保 .....	15
④ 健診の充実 .....	16
⑤ 計画的な施設整備 .....	20
⑥ 経費削減・抑制対策 .....	21
平成26年度～平成28年度、3年間の取り組み実績 .....	23

## はじめに

この報告書は、「第二次所沢市市民医療センター改革プランの重点対策項目」の「7. 数値目標」に沿って、作成しています。

「(1)経営改善に向けた数値目標」については、平成28年度所沢市病院事業決算書に基づき実績値を計算し、総務省による「平成27年度地方公営企業決算状況調査」に基づく、公立病院(対象50床未満)全国平均値と比較をしています。

「(2)目標達成のための具体的な取り組み」については、それぞれの項目ごとに記載しています。

# 平成28年度 第二次改革プラン目標値に対する実績値

## (1) 経営改善に向けた数値目標

### ① 病床利用率（1日平均入院患者数）

病床利用率は、病院のベッドがどの程度、効率的に稼働しているかを示す指標です。  
100%に近いほど空いているベッドがない状態で効率的に利用されていることになります。

平成28年度実績値 (1日平均入院患者数)	<b>49.1%</b> (24.1人)	平成28年度目標値 (1日平均入院患者数)	<b>62.2%</b> (30.5人)
前年度増減	(△2.0ポイント) (△0.9人)	目標値との差	(△13.1ポイント) (△6.4人)

#### ★ 計算式

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{入院患者延数}}{\text{病床数} \times \text{日数}} \times 100$$

#### ★ 計算式用データ

- ・入院患者延数 : 8,780人
- ・病床数 : 49床
- ・日数 : 365日

#### ◆ 市民医療センター過去3年間の病床利用率

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実績値	51.0%	52.5%	51.1%	49.1%
目標値		55.3%	58.8%	62.2%
目標値との差		△2.8ポイント	△7.7ポイント	△13.1ポイント

#### ◆ 市民医療センター1日平均入院患者数

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実績値	25.0人	25.7人	25.0人	24.1人
目標値		27.1人	28.8人	30.5人
目標値との差		△1.4人	△3.8人	△6.4人

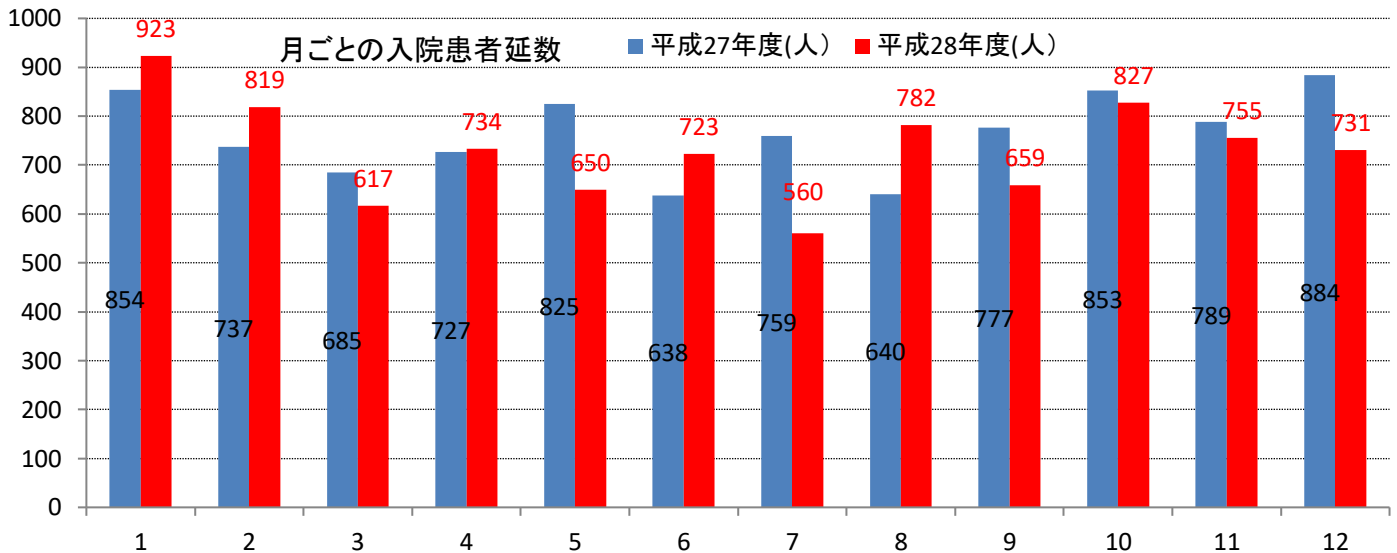
#### ◆ 公立病院(対象50床未満)全国平均値との病床利用率の比較 (参考)

	平成28年度市民医療センター実績値	平成27年度全国平均値	平成27年度全国平均値と平成28年度市民医療センター実績値との差
病床利用率(一般)	49.1%	63.0%	△13.9ポイント

◆市民医療センター月ごとの病床利用率

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期平均
平成28年度	62.8%	53.9%	42.0%	48.3%	42.8%	49.2%	49.8%

下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期平均
平成28年度	36.9%	53.2%	43.4%	54.4%	55.0%	48.1%	48.5%



◆市民医療センター平均在院日数

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度増減
平均在院日数	16.9日	17.2日	18.8日	1.6日

※平均在院日数は、病院全体で一人ひとりの患者が何日間入院しているかを示す指標です。

市民医療センターは、10対1入院基本料の施設基準となっています。

10対1の入院基本料の場合、平均在院日数は21日以内でなければなりません。

◆市民医療センター新入院患者数

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度増減
新入院患者数	556人	537人	462人	△75人

◆市民医療センター入院患者延数

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度増減
入院患者延数	9,397人	9,168人	8,780人	△388人

●平成28年度実績

- ・平成28年度の病床利用率は、49.1%となり、目標値の62.2%を、13.1ポイント下回る結果となりました。
- ・高齢化の進展により、入院患者層の範囲が限られている現行の急性期病床では十分な対応が難しい状況です。また、常勤医師2名が退職したことに伴い、スポット勤務の非常勤医師で対応しましたが、外来患者数が減となり、それに伴い入院患者数も減となりました。

## ② 医業収支比率

病院の本業である医業活動から生じる医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標であり、医業活動における経営状況を判断するものです。この比率が100%以上であれば医業活動で利益を発生しています。

平成28年度実績値	76.5%	平成28年度目標値	82.4%
前年度増減	△0.2ポイント	目標値との差	△5.9ポイント

★ 計算式

$$\text{医業収支率} = \frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$$

★ 計算式用データ

- ・医業収益 : 1,360,972千円
- ・医業費用 : 1,778,239千円

◆ 市民医療センター過去3年間の医業収支比率

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実績値	72.4%	75.2%	76.7%	76.5%
目標値		78.6%	80.7%	82.4%
目標値との差		△3.4ポイント	△4.0ポイント	△5.9ポイント

◆ 市民医療センター医業収益と医業費用

区分	平成27年度	平成28年度	対前年度増減額	対前年度増減率
医業収益	1,268,504千円	1,360,972千円	92,468千円	7.3%
医業費用	1,654,920千円	1,778,239千円	123,319千円	7.5%

◆ 公立病院(対象50床未満)全国平均値との医業収支比率の比較 (参考)

	平成28年度市民医療センター実績値	平成27年度全国平均値	平成27年度全国平均値と平成28年度市民医療センター実績値との差
医業収支比率	76.5%	68.6%	7.9ポイント

● 平成28年度実績

- ・平成28年度の医業収支比率は、76.5%となり、目標値の82.4%を、5.9ポイント下回る結果となりました。
- ・難病患者の診療を他の病院から引き継いだことにより、難病患者の診療に係る外来収益が増となりましたが、これに伴う薬品費(医業費用)が大幅に増となったことに加え、入院収益の大幅減、健康検診収益についても減となったことにより、医業収支比率が減となりました。
- ・入院収益は、患者数の減少による減に加え、医師の退職により内視鏡手術(ESD,大腸ポリープ切除)や胃ろうの造設など、診療報酬の高い医療の実施件数が大幅に減少したことも一つの要因となっています。

### ③ 職員給与費比率

医業収益に占める給与費(人件費)の割合を示し、病院経営の健全性を見るための指標です。比率が低いほど望ましく、一般的に、55%以下が望ましいといわれています。

平成28年度実績値	57.5%	平成28年度目標値	57.7%
前年度増減	4.0ポイント	目標値との差	0.2ポイント

★ 計算式

$$\text{職員給与費比率} = \frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$$

★ 計算式用データ

- ・ 給与費 : 782,776千円
- ・ 医業収益 : 1,360,972千円

※計算式及び計算式用データの給与費は、総務省が作成する全国公立病院の統計資料で用いている数値に合わせ、退職手当負担金、非常勤医師(非常勤特別職)報酬、短時間勤務の臨時職員賃金を除外した数値を基に計算しています。

◆ 市民医療センター過去3年間の職員給与費比率

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実績値	64.5%	64.3%	61.5%	57.5%
目標値		61.1%	59.1%	57.7%
目標値との差		△3.2ポイント	△2.4ポイント	0.2ポイント

◆ 市民医療センター給与費と医業収益

区分	平成27年度	平成28年度	前年度増減	増減率
給与費	780,675千円	782,776千円	2,101千円	0.3%
医業収益	1,268,504千円	1,360,972千円	92,468千円	7.3%

◆ 公立病院(対象50床未満)全国平均値との職員給与費比率の比較 (参考)

	平成28年度市民医療センター実績値	平成27年度全国平均値	平成27年度全国平均値と平成28年度市民医療センター実績値との差
職員給与費比率	57.5%	74.7%	17.2ポイント

● 平成28年度実績

- ・平成28年度の職員給与費比率は、57.5%となり、目標値の57.7%を0.2ポイント上回る結果となりました。
- ・給与費については、人間ドックでの内視鏡検査導入準備などに伴う事務職等の時間外勤務の増によって、前年度より0.3%増となりましたが、難病患者に係る診療による医業収益(外来収益)が増になったことにより、職員給与費比率は改善され目標値を達成しました。
- ・退職した医師や育児休業中の看護師の業務を、非常勤医師や派遣の看護師で対応する必要があったことから、非常勤医師報酬約1億1,400万円(前年度は約1億600万円)、医師紹介手数料約350万円(前年度は約54万円)、看護師派遣委託料約240万円(前年度は0円)という、職員給与費比率には含まれない人件費も発生しています。

## ④ 経常収支比率

医業費用、医業外費用に対する医業収益、医業外収益の割合を表し、通常 of 病院活動による収益を示す指標です。

この比率が100%以上の場合は単年度黒字を、100%未満の場合は単年度赤字を表します。

平成28年度実績値	96.9%	平成28年度目標値	101.3%
前年度増減	△4.8ポイント	目標値との差	△4.4ポイント

### ★ 計算式

$$\text{経常収支率} = \frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

経常収益：医業収益 + 医業外収益      経常費用：医業費用 + 医業外費用

### ★ 計算式用データ

- ・ 医業収益：1,360,972千円      医業外収益：393,233千円      計：1,754,205千円
- ・ 医業費用：1,778,239千円      医業外費用：32,917千円      計：1,811,156千円

### ◆ 市民医療センター過去3年間の経常収支比率

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実績値	94.5%	98.9%	101.7%	96.9%
目標値		97.7%	100.0%	101.3%
目標値との差		1.2ポイント	1.7ポイント	△4.4ポイント

### ◆ 市民医療センター経常収益と経常費用

区分	平成27年度	平成28年度	対前年度増減額	対前年度増減率
経常収益	1,707,998千円	1,754,206千円	46,208千円	2.7%
経常費用	1,680,277千円	1,811,157千円	130,880千円	7.8%

### ◆ 公立病院(対象50床未満)全国平均値との経常収支比率の比較 (参考)

	平成28年度市民医療センター実績値	平成27年度全国平均値	平成27年度全国平均値と平成28年度市民医療センター実績値との差
経常収支比率	96.9%	96.6%	0.3ポイント

### ● 平成28年度実績

- ・平成28年度の経常収支比率は、96.9%となり、目標値の101.3%を、4.4ポイント下回る結果となりました。
- ・経常収益は前年度より2.7%増となったものの、経常費用が7.8%増と収益の増加率よりも大幅に増となったことにより、経常収支比率は伸び悩み、前年度より4.8ポイント減となりました。
- ・難病患者の診療を他の病院から引き継いだため、難病患者の診療に係る外来収益が増となりましたが、これに伴う薬品費が大幅に増となったことに加え、入院収益及び一般会計からの繰入金大幅に減となったことにより、経常収支比率が減となりました。



## (2) 目標達成のための具体的な取り組み

### ① 地域連携体制の強化

#### ア 地域連携部門の充実を実現するための人員配置を行います。

##### ◆ 地域連携室対応件数

	平成27年度	平成28年度	前年度増減	増減率
相談業務	4,867件	6,527件	1,660件	34.1%
予約業務	429件	467件	38件	8.9%
調整業務	1,993件	2,669件	676件	33.9%

##### ● 平成28年度実績

- ・地域連携業務としては、入院受入、退院支援、外来相談、退院後の患者宅への訪問、医療機関や施設の訪問、防衛医科大学校病院を始めとした近隣の総合病院の予約代行などを行い内容の充実に努め、対応件数が増加しました。
- ・所沢市医師会が主体となって実施している「在宅療養支援ベッド確保事業(※1)」に参画しており、開業医からの依頼により、在宅療養中の患者の入院の受け入れを行いました。
- ・6月より、「退院後訪問指導料(※2)」の算定を開始し、18件算定しました。
- ・7月より、「退院支援加算1(※3)」の算定を開始し、190件算定しました。
- ・病棟看護師が訪問看護ステーションの同行研修に参加し、退院支援などの対応に活かしました。

##### ※1 在宅療養支援ベッド確保事業

在宅療養中の患者の病状変化に伴い(※)、かかりつけ医からの依頼により入院を受け入れるために、所沢市内で1日1床の在宅療養支援ベッドを確保しておく事業で、現在、所沢市市民医療センターを含め市内で8つの医療機関が曜日ごとに輪番当番制により、365日対応しています。利用できる時間は、午前9時～午後5時までで、入院日数は、入院した日から14日以内を目安としており、入院費用は通常の入院と同じです。

利用できる人は、かかりつけ医が入院の必要性を認めた在宅療養中の患者で、あらかじめかかりつけ医による患者登録が必要です。

(※)意識がない。心臓発作・けいれん・骨折など救急車を呼ばなければならない状態は病状の急変に含まれません。

##### ※2 退院後訪問指導料

平成28年度の診療報酬改定で、医療ニーズの高い入院患者に対して退院後1カ月以内に、自宅等を看護師が訪問し、必要な療養指導を行った場合、「退院後訪問指導料」580点が算定できるようになりました。

##### ※3 退院支援加算1

平成28年度診療報酬改定において、「退院支援加算1」と「退院支援加算2」が新設されました。「退院支援加算1」は、従来の退院調整加算の施設基準を強化したもので、一般病棟退院患者に退院支援を行った場合、退院時に600点を算定することができます。

## イ 地元開業医院や防衛医科大学校病院及び地域包括支援センターなどの連携強化を図り紹介入院の増加対策を行います。

地域連携室を通して、近隣の医療機関、地域包括支援センター、介護老人福祉施設などから紹介で入院した患者数です。

### 紹介入院患者数

平成28年度実績値	301人	平成28年度目標値	400人
前年度増減	9人	目標値との差	△99人

※地域包括支援センター・ケアマネジャーからの相談入院を含みます。

### ◆ 市民医療センター過去3年間の紹介入院患者数

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実績値	283人	289人	292人	301人
目標値		335人	367人	400人
目標値との差		△46人	△75人	△99人

### ◆ 市民医療センターへ入院した患者の経路

区分	平成27年度	平成28年度	前年度増減
医療機関等からの紹介による入院	264人	262人	△2人
地域包括支援センター・ケアマネジャーからの相談による入院	28人	39人	11人
紹介入院患者数計	292人	301人	9人
外来受診後による入院	198人	131人	△67人
救急搬送による入院	47人	30人	△17人
新入院患者数計	537人	462人	△75人

### ◆ 市民医療センターから退院等した患者の経路

区分	平成27年度	平成28年度	前年度増減
自宅への退院	306人	244人	△62人
急性期病院への転院	54人	34人	△20人
回復期リハビリ病院・療養型病院への転院	29人	44人	15人
施設への退院	101人	117人	16人
死亡	39人	35人	△4人
退院患者数計	529人	474人	△55人

### ◆ 在宅復帰率

区分	平成28年度
自宅及び居住系介護施設	343人
在宅強化型・在宅療養支援機能加算の介護保険施設	12人
在宅復帰患者数計	355人

在宅復帰率
80.9%

在宅復帰率：  
在宅復帰患者数計 ÷ (退院患者数計 - 死亡)

## ● 平成28年度実績

- ・医療機関等からの紹介による入院患者数は、前年度に比べて2名減少したものの、地域包括支援センター・ケアマネージャーからの相談による入院が11名増加した結果、紹介入院患者数は前年度より9名増となりました。
- ・医師の退職に伴う補充をスポット勤務の非常勤医師で対応しましたが、専門に特化した医師ではないため、入院につなげることができなかったことに加え、救急搬送の急患対応が十分に対応できなかったため、救急搬送による入院が前年度より84名減少しました。
- ・退院先として自宅への退院が減り、回復期リハビリ病院等や施設への転院・退院が増えました。
- ・平成28年度、年間の在宅復帰率は、80.9%で7割を超えました。
- ・今後、急速に高齢化が進んでいく中で、医療・介護・福祉など一体的に提供していくことが必要とされていることから、地域完結型医療提供体制の実現のため、各医療機関や介護老人福祉施設等との連携を推進しました。
- ・地域との連携強化を図るため、地域の医療や介護に関する会議や研修に参加し、福祉や介護に携わるスタッフとの連携を深め、それぞれのサービスの利用者が適切な医療や介護を受けられるよう支援しました。

※地域包括ケア入院医療管理料1を取るための要件の一つとして、在宅復帰率7割以上というものが  
あります。

## ウ 地域包括支援センターとの意見交換会、在宅療養支援病院連携医療機関に係る定期カンファレンスへの参加など地域交流を充実させます。

### ● 平成28年度実績

- ・11月に第5回地域交流会を開催し、糖尿病に関する医師の講演や退院支援に関する事例紹介を行いました。ケアマネージャーなど55名の参加があり、介護関係者との意見交換会を通じて市民医療センターのPRを行いました。
- ・各種フォーラムや懇談会、研修会などに参加し、市民医療センターの診療や地域連携室の活動をPRすることで、連携先として市民医療センターを意識してもらえるように取り組みました。

月	活動状況
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養支援ベッド確保事業運営協議会出席</li> <li>・所沢市東部地区診療連携フォーラム出席</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣病院地域連携室視察</li> <li>・所沢市東部地区診療連携フォーラム出席</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉医科大学連携施設懇親会出席</li> <li>・所沢市東部地区診療連携フォーラム出席</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養支援ベッド確保事業運営協議会出席</li> <li>・複十字病院連携会議出席</li> <li>・防衛医大地域医療連携検討会出席</li> <li>・所沢市東部地区診療連携フォーラム出席</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター主催医療と介護の連携会議出席</li> <li>・特別養護老人ホーム訪問</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入間地区専門職連携会議出席</li> <li>・埼玉県西部地区医療連携懇親会出席</li> <li>・在宅療養支援ベッド確保事業運営協議会出席</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉医科大学連携施設懇親会出席</li> <li>・所沢市医師会認知症医療委員会出席</li> <li>・特別養護老人ホーム訪問</li> <li>・所沢市東部地区診療連携フォーラム出席</li> <li>・第1回地域連携勉強会を開催</li> <li>・地域連携室だより第15号を市内の医療機関へ郵送</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟看護師訪問看護ステーション同行研修</li> <li>・第15回東京病院地域医療連携交流会出席</li> <li>・特別養護老人ホーム、地域包括支援センター訪問</li> <li>・地域包括支援センター主催の医療と介護の連携会議出席</li> <li>・第15回所沢認知症ネットワーク交流会出席</li> <li>・第15回東京病院地域医療連携交流会出席</li> <li>・所沢市東部地区診療連携フォーラム出席</li> <li>・複十字病院地域交流会出席</li> <li>・第5回市民医療センター地域交流会開催</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養支援ベッド確保事業運営協議会出席</li> <li>・市内のクリニック訪問</li> <li>・所沢市東部地区診療連携フォーラム出席</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の開業医を訪問</li> <li>・防衛医科大学校病院平成28年度第2回地域医療連携検討会出席</li> <li>・特別養護老人ホーム訪問</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所沢市東部地区診療連携フォーラム出席</li> <li>・所沢市地域医療連携交流会出席</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回地域連携勉強会開催</li> <li>・所沢市医師会・薬剤師会合同講演会出席</li> <li>・所沢市医師会在宅療養支援ベッド確保事業交流会出席</li> </ul>

## エ がん検診事業の受託など保健センターとの連携強化を推進します。

保健センターで行っている事業について、市民医療センターで受託あるいは協力した件数を記載してあります。

### ◆受診件数

名 称	平成27年度		平成28年度		前年度増減
	受診件数	受託率	受診件数	受託	
1 骨粗しょう症検診	924人		1,272人		348人
うち受託分(集団)	924人	100%	1,272人	100%	348人
2 胃がん検診(胃部X線検査)	3,622人		3,625人		3人
うち受託分(集団)	222人	6.1%	229人	6.3%	7人
3 肺がん検診(胸部X線検査)	4,594人		4,821人		227人
うち受託分(集団)	198人	4.3%	202人	4.2%	4人
うちドックオプション	446人	9.7%	432人	9.0%	△14人
4 子宮頸がん検診	10,514人		10,376人		△138人
うち受託分	1,039人	9.9%	1,008人	9.7%	△31人
5 乳がん検診	6,567人		5,980人		△587人
うち受託分	690人	10.5%	695人	11.6%	5人
6 大腸がん検診	19,318人		16,558人		△2,760人
うち受託分	304人	1.6%	251人	1.5%	△53人
7 前立腺がん検診			2,859人		
うち受託分			260人	9.1%	

※骨粗しょう症検診：市民医療センターで検査を実施。

※胃がん検診・肺がん検診：保健センターで実施する受診者の内、一部を市民医療センターで検査を実施。

※子宮頸がん検診：市民医療センターほか、市内協力医療機関で実施。

※乳がん検診・大腸がん検診：保健センターの他、市民医療センター、市内協力医療機関で実施。

※前立腺がん検診：平成28年度から開始。(市民医療センターの人間ドックでは、以前よりオプション検査として実施)

### ● 平成28年度実績

- ・骨粗しょう症検診は、受診者の全員を市民医療センターですべて受託し検査しており、前年度に比べ受診者数が348人増加し、1,272人の検査を実施しました。
- ・胃がん検診、肺がん検診は、保健センターで受診する受診者の内、一部を市民医療センターで受託し検査していますが、受診件数全体が増となったため、受託検査件数も前年度より増加しました。
- ・子宮頸がん検診、大腸がん検診については、受診件数全体が減となったため、受託検査件数についても減となりました。
- ・がん検診事業の受託のほか、市民医療センターリハビリテーション強化対策チーム会議(月1回開催)において、保健センター理学療法士から病棟を担当する看護師がADLの低下を防ぐアドバイス等を受け、リハビリに関する知識の向上を図り、入院患者のリハビリを実施しました。
- ・8月より月1回、専門学校で講師をしている理学療法士に病棟で勤務する看護師がリハビリテーションの指導を仰ぎ、主としてベッド上での拘縮予防に関する研修を重点的に受講し、入院患者へのリハビリに活かしました。

## オ ホームページの更新メンテナンス、「センター通信」の発行など広報活動の強化により、市民医療センターの特徴を周知します。

広報活動の実績を記載してあります。

### ● 平成28年度実績

- ・「センター通信」を平成28年5月、10月、平成29年2月に発行し、市民医療センター内の取り組みや委員会活動などについて情報発信しました。
- ・ホームページについては、市民医療センター各科の職員で構成する広報委員会を中心に、市民等が知りたい情報の整備や掲載内容の見直しを行い、わかりやすい情報発信に努め、広報活動を行いました。
- ・小児急患診療の名刺サイズの案内カードを作成し、市立保育園及び私立保育園(57施設)、認定こども園(4施設)、市立児童館(11施設)、各まちづくりセンター(11施設)、市民課サービスコーナー(3施設)、子ども支援課、市立幼稚園及び私立幼稚園(22施設)、そして新たに、児童クラブ(31施設)、市立障害児通所支援事業所(2施設)を加えた、142施設で利用者等に配布してもらい、小児急患診療に関する広報活動を実施しました。
- ・保健センター健康まつり(11月13日開催)に参加し、市民医療センターの取り組み等についてPRを行いました。当日は「ロコモ度テスト」を実施したところ、100人以上の参加があり、その参加者の中から人間ドックの受診につながるケースがありました。
- ・10月に地域連携室だより第15号を市内の開業医に送付し、地域連携室の状況などの広報活動をしました。

## ② 内科診療の充実

### ア 健診部門と診療部門との連携強化を図ります。

受診率は、市民医療センターで人間ドック等を受診した結果、精密検査を指示された受診者が、市民医療センターにおいて精密検査を受診した割合が記載されています。

#### 市民医療センターでの受診率

平成28年度実績値	29%	平成28年度目標値	30%
前年度増減	0ポイント	目標値との差	△1ポイント

#### ◆ 市民医療センター過去2年間の受診率

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実績値	31%	29%	29%
目標値	20%	25%	30%
目標値との差	11%	4%	△1%

#### ◆ 市民医療センター精密検査指示件数とセンター受診者数

年度	平成27年度	平成28年度	前年度増減	増減率
精密検査指示件数	1,568人	1,606人	38人	2.4%
センター受診者数	449人	467人	18人	4.0%

#### ● 平成28年度実績

- ・平成28年度の精密検査指示者に対する市民医療センターでの精密検査受診率は、29%となり、目標値である30%を、1ポイント下回る結果となりました。
- ・精密検査の受診率向上のため、成績表や面接による結果説明時の受診勧奨に加え、数カ月経過しても医療センターでの外来受診が確認できない場合は、精密検査の受診状況の確認通知を送付することで再度受診勧奨を実施し、確実な受診を働きかけました。



・平成28年度検査業務等実績件数

項目名称	入院	外来	計
検体検査	31,187件	165,968件	197,155件
生理学的検査	6,019件	23,182件	29,201件
計	37,206件	189,150件	226,356件
X線直接撮影検査	1,412件	5,944件	7,356件
CT撮影検査	372件	1,120件	1,492件
計	1,784件	7,064件	8,848件

※検体検査(生化学検査、血液学的検査、免疫血清検査、細菌検査等)

※生理学的検査(心電図検査、脳波検査、超音波検査、呼吸機能検査等)

項目名称	入院	外来	計
初診料	259回	22,435回	22,694回
再診料	12回	34,662回	34,674回
外来管理加算	—	31,495回	31,495回
特定疾患療養管理料	—	16,755回	16,755回
内視鏡的大腸ポリ プ・粘膜切除術	14回	267回	281回
胃・十二指腸、大腸 内視鏡検査等	92回	1,409回	1,501回



### ③ 小児科の医師確保

ア 所沢市域全体として、昼間・夜間・深夜全ての時間帯での初期救急体制を安定的に維持します。

#### ◆外来患者数

区分	平成27年度	平成28年度	前年度増減	増減率
小児科平日昼間	18,042人	18,602人	560人	3.1%
小児科夜間	4,908人	4,621人	△287人	△ 5.8%
小児科深夜	2,046人	1,854人	△192人	△ 9.4%
小児科休日	4,120人	4,112人	△8人	△ 0.2%
計	29,116人	29,189人	73人	0.3%

#### ◆1日平均患者数

平成27年度	平成28年度	前年度増減	増減率
74.2人	76.6人	2.4人	3.2%
13.4人	12.7人	△0.7人	△ 5.2%
7.8人	7.1人	△0.7人	△ 9.0%
58.0人	57.9人	△0.1人	△ 0.2%

#### ◆診療日数

区分	平成27年度	平成28年度
小児科平日昼間	243日	243日
小児科夜間	366日	365日
小児科深夜	261日	262日
小児科休日	71日	71日

#### ●平成28年度実績

- ・常勤小児科医師のほか、非常勤医師や所沢市医師会からの派遣医師約50人担当日の調整を図るとともに、所沢市薬剤師会の薬剤師の協力を得て、所沢市域全体として、365日、昼間・夜間・深夜のすべての時間帯で初期救急医療体制を安定的に確保しました。
- ・小児初期救急医療推進ネットワーク協議会においてゴールデンウィーク及び年末年始の初期救急医療体制について協議し、小児急患診療を安定的に実施しました。
- ・夜間及び深夜の患者数が減となったものの、平日昼間の患者数が増となったため、小児科患者数全体では微増となりました。

イ 短期間の入院患者を、受け入れできる体制整備を進めます。

#### ●平成28年度実績

- ・第三次救急医療機関の防衛医科大学校病院、第二次救急医療機関の西埼玉中央病院、瀬戸病院での入院体制の状況を注視し、必要性を見極めるとともに、その中で市民医療センターの担う役割として初期救急医療体制の維持に努めました。

## ④ 健診の充実

### ア 定期的にアンケート調査を行う等、利用者のニーズを的確に把握し、人間ドックの更なる充実を図ります。

健康検診の充実を図るために行った実績を以下に記載してあります。

#### ◆健康検診受診者数

種別	平成27年度	平成28年度	前年度増減
人間ドック日帰りコース	10,265人	10,127人	△138人
生活習慣病コース	1,138人	1,063人	△75人
生活習慣病予防健診 (協会けんぽ)一般健診	2,600人	2,775人	175人
指定検診	16,773件	17,156件	383件
特定健康診査	691人	716人	25人

※指定検診(特定健康診査(所沢市国民健康保険被保険者)、定期健康診断、後期高齢者医療健康診査(所沢市居住者)、人間ドック(日帰り及び生活習慣病コース)に係るオプション検査、生活習慣病予防健診(協会けんぽ)に係るオプション検査等)

#### ◆健康検診(人間ドック日帰りコース、生活習慣病コース、生活習慣病予防健診(協会けんぽ)一般健診等)

種別	平成27年度	平成28年度	前年度増減
受診者数計	14,170人	14,218人	48人
実施日数	238日	235日	△3日
1日平均人数	59.5人	60.5人	1.0人
稼働率	81.6%	82.9%	1.3%

※稼働率計算式：受診者数計÷(実施日数×73人) 午前中の受診者数は、1日最大73人まで。

#### ◆内視鏡検査の需要アンケート

- 平成28年5月に、30歳以上の正規職員及び再任用職員1,804人を対象に実施し、1,230人(回答率68.2%)から回答がありました。

検査内容	受診希望者	割合
バリウム検査	503人	40.9%
内視鏡検査	722人	58.7%
未回答	5人	0.4%

- 男女別では、男性回答者783人中426人(割合54.4%)、女性回答者445人中296人(割合66.5%)が内視鏡を希望しており、アンケートにおいては、女性の方が内視鏡検査を希望する割合が高い結果となりました。
- 内視鏡を希望した722人の選択理由として、「バリウムや発泡剤が飲みづらい」と回答した方が277人(割合38.4%)と一番多く、続いて「内視鏡検査の精度の高さにおける信用性に関する意見等」が150人(割合20.8%)という結果でした。

## ● 平成28年度実績

- ・昨年度より、受診者数の少ない時期(3、4、5月)に受診を促す取り組みとして、月ごとの受診者数をグラフ化し、ホームページや受診勧奨ハガキ、人間ドックの事前送付書類などに掲載して、混雑時期を避けた受診を促してきました。その結果、昨年の受診者数と比較し4月は60人、5月が178人の増加となりました。
- ・国民健康保険課と連携し、人間ドックのお知らせを新規加入者に受付窓口で配布してもらうとともに、特定健診受診券を送付する際にお知らせを同封するなど新たな受診者の獲得に努めました。
- ・12月から、新たにホームページ上に人間ドック申込フォームを掲載し、24時間365日、ネットから予約が申し込めるようにしました。  
(平成28年12月～平成29年3月の申込フォーム利用者数 118人)
- ・広報活動の取り組みとして、まちづくりセンターなどの公共施設にポスターの掲示、所沢市・狭山市・入間市・飯能市に設置してあるコミュニティビジョンを活用した情報発信、インターネット予約サイトを活用した情報発信などを行いました。
- ・受診者数を維持する取り組みとして、前年度の受診者を対象にハガキによる受診勧奨を行いました。(6月1,545件、9月1,632件)
- ・受診者の利便性を向上する取り組みとして、健診会場の一部をレイアウト変更し、問診室及び待合スペースの改善を図りました。
- ・健診会場入口にトコロんがイラストされた広告付き玄関マットを導入し、行政財産使用料等の医業外収益の獲得に繋げました。
- ・受診者サービスの向上の取り組みとして、県立芸術総合高等学校の生徒が制作した絵画等の作品を鑑賞できるよう、健診会場内に展示スペースを整備しました。
- ・人間ドックでの内視鏡による上部消化管検査の実施に向け、市の職員を対象にアンケートを実施し、内視鏡に対する需要を調査するとともに、他の医療機関の状況(料金・実施人数等)や運用方法など様々な観点から調査・検討を行い、平成29年4月からの実施に向けて整備を進めました。
- ・1月から内視鏡室の増室に伴う工事を実施し、3月からはテスト運用を開始しました。
- ・超音波室及び問診室の増設工事や衝立の設置などにより、よりプライバシーに配慮した環境を整えるとともに、混雑緩和に努めました。

## イ 健康保険組合などと調整し、人間ドック等の受診者数の平準化を図ります。

人間ドック受診者数の平準化を図った実績を下記に記載してあります。

### ◆人間ドック日帰りコースの消防局と市職員の受診者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
消防局 平成28年度	9人	100人	157人	56人	62人	64人
消防局 平成27年度	10人	108人	169人	70人	63人	12人
市職員 平成28年度	27人	49人	187人	160人	155人	189人
市職員 平成27年度	17人	40人	148人	201人	169人	166人

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	各月全体平均	標準偏差
消防局 平成28年度	6人	2人	14人	9人	21人	9人	509人	42人	47.73
消防局 平成27年度	3人	11人	8人	6人	18人	8人	486人	41人	52.46
市職員 平成28年度	225人	266人	165人	158人	192人	27人	1,800人	150人	76.64
市職員 平成27年度	264人	263人	163人	141人	209人	28人	1,809人	151人	81.25

### ◆人間ドック日帰りコースの年間受診者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成28年度	533人	550人	990人	1,001人	933人	972人
平成27年度	436人	540人	1,026人	1,150人	973人	890人

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	各月全体平均	標準偏差
平成28年度	1,008人	1,007人	752人	776人	867人	738人	10,127人	844人	173.66
平成27年度	1,069人	985人	828人	784人	888人	696人	10,265人	855人	213.42

### ※標準偏差

標準偏差は、「平均からのズレ」の程度を表す一つの指標です。標準偏差値が大きいほどデータのばらつきが大きく、標準偏差値が小さければデータのばらつきは、小さいということになります。

例えば、毎月同じ受診者数の場合(すなわち全ての月が平均値であった場合)、データにバラツキがないので、標準偏差は「0」になります。

標準偏差は、「各データの値と平均の差の2乗の合計を、データの個数で割った値の平方根(=√)」という公式で求められます。

### ●平成28年度実績

- ・昨年度より可能となった市職員の4月からの申し込みが徐々に浸透してきたことで、平成28年度は4月、5月の受診者が増えました。
- ・全体として、人間ドック受診者数の平準化が進みました。その要因としては、様々な広報活動などを通じて、4月、5月が待ち時間も少なくスムーズに受診してもらえることをアピールしてきたことで、徐々に効果がでてきたものと考えています。

## ウ 午後の時間帯を利用した健診等を検討します。

### ● 平成28年度実績

- ・月曜から木曜の午後1時から2時までは、定期健康診断(法定健診)、所沢市国民健康保険及び後期高齢者医療制度の加入者を対象とした特定健康診査を1日最大38名実施しました。
- ・月曜から金曜の午後2時から午後4時までは、人間ドック受診者のうち希望者に対し、面接による結果説明を1日最大24名実施しました。

・午後の時間帯に実施している業務の実績値は下記のとおりです。

午後の時間帯の健診(月曜から木曜日/午後1時~2時)

区分	平成27年度	平成28年度	前年度増減
定期健康診断	2,331人	2,326人	△5人
特定健康診査	501人	716人	215人
後期高齢者健康診査	192人	183人	△9人

面接による結果説明(月曜~金曜日/午後2時~4時)

区分	平成27年度	平成28年度	前年度増減
面接による結果説明(当日)	108人	84人	△24人
面接による結果説明(後日)	2,687人	2,333人	△354人
面接計	2,795人	2,417人	△378人
面接率	27.2%	23.9%	

※面接率 = 面接計 ÷ 人間ドック日帰りコース

## ⑤ 計画的な施設整備

### ア 老朽化に伴う施設整備及び医療機器の計画的な更新と導入を行います。

計画的な施設整備及び医療機器更新の実績を下記に記載してあります。

#### ● 平成28年度実績

- ・今後の医療機器を計画的に整備していくために、医療機器更新計画表を作成しました。この計画表により、医療機器更新を計画的に整備していきます。
- ・老朽化した空調配管更新計画を策定するため、X線診断調査を実施しました。
- ・埼玉県新型インフルエンザ等入院医療機関整備事業費補助金の交付を受け、2台目の人工呼吸器を購入しました。
- ・下記のとおり、計画的に施設整備及び医療機器の更新を行いました。

月	医療機器	施設整備
4月	病棟エアーマット更新	
5月		
6月	病棟ベッド更新	
7月	輸液ポンプ更新	
	病棟ベッド更新	
	厨房冷蔵庫更新	
	シリンジポンプ更新	
8月	血圧脈波検査装置更新	計測室・問診室改修工事
	眼底カメラ更新	
	大腸ビデオスコープ更新	
	心電計更新	
	ストレッチャー購入	
	人工呼吸器更新	
9月		
10月		
11月	小児科薬品保冷库更新	
12月		
1月		
2月	人工呼吸器購入	内視鏡室増室工事
3月	内視鏡装置購入、更新	超音波室増室工事
		問診室増室工事

## ⑥ 経費削減・抑制対策

ア 職員の退職に伴う人員の補充に際しては、病院事業の安全性と医療サービスの低下を招かないように配慮し、再任用職員の活用や臨時職員の雇用、委託化などの活用により可能な限り費用の削除に努めます。また、適正な人員配置や業務の効率化に努め、時間外勤務の削減を図ります。

適正な人員配置を行うとともに、費用の削減に努めました。

### ◆職員給与費

年度	平成27年度	平成28年度	前年度増減	増減率
職員給与費	1,026,533千円	1,025,346千円	△1,187千円	△0.1%

※職員給与費は、退職手当の負担金、非常勤医師(非常勤特別職)の報酬、短時間勤務の臨時職員の賃金を含んだ数値を用いています。

### ●平成28年度実績

- ・職員給与費が前年度と比較し、1,187千円減少しました。
- ・減となった要因は、医師の退職2人(6月末、9月末)、看護師の再任用変更1人、臨床検査技師の再任用に変更1人によるものです。

## イ 委託業務、賃貸等の条件、業務フロー、運用の見直しによって、更なる経費削減を行います。

経費削減の実績を下記に記載してあります。

### ◆経費削減した主な委託費用

件名	平成27年度	平成28年度	削減額	削減理由
CT撮影装置保守委託	8,424,000円	7,776,000円	648,000円	仕様の見直し
X線TV装置保守委託	4,011,120円	3,913,920円	97,200円	仕様の見直し
心電計保守委託	254,880円	201,960円	52,920円	仕様の見直し
医療器具滅菌業務委託	3,913,920円	3,688,200円	225,720円	見直しによる
合計	16,603,920円	15,580,080円	1,023,840円	

### ◆委託料全体

年度	平成27年度	平成28年度	前年度増減	増減率
委託料	261,584千円	276,436千円	14,852千円	5.7%

### ◆正式採用医薬品における後発医薬品の割合

平成28年度数量ベース	4月	5月	6月	7月	8月	9月
後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量	9,619数	12,768数	8,352数	15,536数	15,353数	15,523数
後発医薬品の規格単位数量	5,587数	6,862数	4,532数	11,059数	11,783数	11,690数
後発医薬品の割合	58.1%	53.7%	54.3%	71.2%	76.7%	75.3%

平成28年度数量ベース	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計・平均
後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量	10,808数	10,654数	12,057数	11,895数	14,753数	15,163数	152,481数
後発医薬品の規格単位数量	8,245数	7,844数	8,839数	9,089数	10,745数	10,284数	106,559数
後発医薬品の割合	76.3%	73.6%	73.3%	76.4%	72.8%	67.8%	69.9%

### ●平成28年度実績

- ・各種保守委託等に係る仕様書の見直しを行い、1,023,840円の経費削減を行いました。
- ・委託料全体では前年度と比較し14,852千円の増加となりました。委託料が増加した主な要因として、病院事業外部評価事業委託、第三次改革プラン策定支援委託、看護師派遣業務委託によるものです。
- ・8月から「後発医薬品使用体制加算3」、12月から「後発医薬品使用体制加算1」の算定を開始しました。
- ・大量に使用している薬品について、後発医薬品への切り替えを進めたことにより、7月以降、後発医薬品の割合が上がりました。



# 平成26年度～平成28年度、3年間の取り組み実績

## (1) 取り組み実績

平成26年度から28年度までの3年間を通じ、経営改善に向けた数値目標を達成するための具体的な取り組みとして、「目標達成のための具体的な取り組み」に掲げた以下の6項目に関する、さまざまな取り組みを行ってきました。

### ① 地域連携体制の強化

- ・看護科科内室としての地域連携室の設置、専従スタッフの拡充
- ・在宅療養支援ベッド確保事業への参画及び在宅療養支援ベッド確保事業運営協議会への定期的な参加
- ・他の医療機関や介護老人福祉施設等への訪問、地域交流会の開催による介護関係者との意見交換会、地域連携室だより・センター通信の発行などによる地域連携業務、センター業務のPR活動
- ・退院後訪問指導料及び退院支援加算1の算定を通じた在宅復帰支援

### ② 内科診療の充実

- ・診療科名(循環器内科、内視鏡内科、糖尿病・代謝内科)の追加による専門性の明確化
- ・徹底的な褥瘡予防、口腔ケアの充実、リハビリテーション機能の強化、外来糖尿病教室、糖尿病フットケアなどにおけるチーム医療の推進
- ・人間ドック受診者の精密検査受診を促進するための、複数回の受診勧奨の実施

### ③ 小児科の医師確保

- ・常勤医師、所沢市医師会、所沢市薬剤師会のほか、非常勤医師の協力により、所沢市域全体で、365日、昼間、夜間、深夜のすべての時間帯での小児初期救急医療体制を安定的に確保
- ・小児初期救急医療推進ネットワーク協議会の開催を通じた小児初期救急推進体制の強化

### ④ 健診の充実

- ・市のコミュニティビジョン、フェイスブックなど、多様な広報チャンネルの活用による広報活動の強化
- ・人間ドックの新規オプション検査として、血圧脈波検査、内視鏡による上部消化管検査の追加
- ・会場のレイアウト変更、受付時間の細分化、医療機器の増設などによる快適な受診環境の整備
- ・前年度の受診者、国民健康保険加入者、後期高齢者医療制度加入者に対する受診勧奨はがきの送付
- ・ホームページや各種送付物などへの混雑時期掲載、市及び消防職員の受診可能時期拡大、健診実施日の増などによる、受診者数の平準化の推進

## ⑤計画的な施設整備

- ・計画的な医療機器更新に向けた医療機器更新計画表の作成
- ・建物を長期的に活用していくために必要な空調配管設備の更新計画策定に向けた調査の実施

## ⑥経費削減・抑制対策

- ・退職、異動による欠員を、再任用職員や臨時職員に置き替えることによる人件費の削減
- ・施設管理、医療機器保守に関する委託業務内容の見直しによる委託料の削減
- ・行政財産の活用による賃借料等の収入確保

## (2)今後の課題

さまざまな取り組みにより実績を積み上げてきた一方で、次のような課題が残りました。特に常勤医師の確保については、早急な対応が必要です。

### ①地域連携体制の強化

- ・地域連携室を設置し、他機関との連携を強化してきたことにより、紹介入院患者数は増加しましたが、目標値に達するまでには至りませんでした。
- ・その一方で、紹介を受けても、専門性の違いなどの理由で受けられないケースもあり、今後高齢化が進む中で、地域包括ケアシステムを担う地域包括ケア病床への病床転換を早急に進めることで、入院患者の受け入れ態勢の強化が必要です。

### ②内科診療の充実

- ・平成26年度に診療科を増やして専門性を明確化したことにより、特に内視鏡手術の実績が大きく増加しましたが、平成28年度に担当医師が退職したため、受入れ枠を縮小せざるを得ない状態にあります。また、外来患者、入院患者数も減少しています。早急な常勤医師の補充が必要です。

### ③小児科の医師確保

- ・所沢市域全体で、365日、昼間、夜間、深夜のにおけるすべての時間帯での小児初期救急医療体制を安定的に確保することはできました。引き続き所沢市域全体で医療体制を維持し、安定的に運営していくことが必要です。
- ・入院体制については、市内の他医療機関の状況を注視し、今後も必要性を見極めていくことが必要です。

#### ④健診の充実

・広報活動の強化や受診勧奨などを通じ、健診受診者の総数や、精密検査の受診率を向上させることはできましたが、個々の健診では減少したコースもあり、健康検診収益は増加しませんでした。収益も増加させるためには、特に人間ドック受診者の増加に繋がる内視鏡検査の充実などの取り組みが必要です。

#### ⑤計画的な施設整備

・計画的な更新を進めていますが、老朽化した設備や機器が数多くあることから、費用対効果を考慮し、計画を精査していく必要があります。

#### ⑥経費削減・抑制対策

・委託業務の見直し、再任用職員や臨時職員の配置、医師の退職などにより、経費の削減は進みましたが、再任用期間の終了、医師の補充、施設整備など、経費が増加する要因が多く控えています。

・費用の削減には限度があることから、収入増加に向けた取り組みの強化が必要です。

< メモ >

第二次所沢市市民医療センター改革プラン  
平成28年度 報告書

平成29年7月

所沢市市民医療センター  
埼玉県所沢市大字上安松1224番地の1  
TEL 04-2998-1151 FAX 04-2998-5941  
e-mail b9921151@city.tokorozawa.lg.jp  
<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/iryo/>

